

母校のためのデザイン

—「常盤」題字デザインのリニューアル—

感性デザイン工学科 H12年卒

河本 幸生

自己紹介

感性デザイン工学科の一期生として、三池・木下研究室に在籍。学士・修士号を取得。就活では何度も山口-東京間を往復し、ようやく内定を獲得。自身最大の取り柄である「三度の飯よりものづくり」の思いが実り、念願のデザイン業界へ進出。その後、



デザイン会社数社を経てフリーランスの活動を開始。経験した領域は多岐にわたるが、これまでのノウハウや個性を最も生かせる「ロゴ」「パッケージ」デザインを主軸に活動中。



自社ロゴ: YNA

めました。

やや若者向けな印象があるかもしれませんが、新旧のデザイン要素をバランスよく配合することで、これまでの工業とこれからの工業、双方から見た「時代変化や技術の流れ」が感じられるのではないのでしょうか。そしてそこに「時代にフィットしたデザインの必要性（工業技術×デザイン）」も感じてもらえればと考えています。

題字デザインに込めた思い

論理的に考え制作した内容が、なるべく伝わるよう願っていますが、よりシンプルに感覚的に「この冊子をもっと魅力的に見え、もっと若い世代にも届くものにしたい」そのお手伝いができれば願っています。

最初にパツと目に入る題字が親しみやすくなることで「あれ？デザイン変わったんだ！」と手に取り読むきっかけになったり、「この題字に変わったなら、こんなコンテンツがあっても面白いかも！」と若い世代からの寄稿や提案が増え、今以上に世代間で刺激し合うきっかけの媒体となれば幸いです。

題字デザインのコンセプト

常盤

まず、2つのテーマを掲げました。

先輩方への敬意

現在まで培われてきた概念や制約の重要性を、規則性のあるデザインで感じ取ってもらう

次世代への訴求と可能性の示唆

少し個性的でポップな第一印象で、若い世代の関心を引くと同時に、新しい発想を取り入れ、変化していくことの面白さを伝える

上記のテーマに基づき、「常盤」の文字を、グリッドをベースに認識可能な範囲内で省略・単純化しました。これにより、既成概念からの脱却や新しい可能性を示唆することを狙っています。中央のマークは、「TOKIWA」の文字をモチーフに、規則正しく並んだ配置で整えることの重要性を、また、四角形を組合せた図形でものができあがっていく過程のイメージを表し、マークの中に散りば

謝辞

「題字のデザインをお願いするなら卒業生に」と初めてご連絡をいただいた時は本当に驚きましたが、16年ぶりに常盤の地を訪れ、お話を伺いし、協議と提案を重ね、こうして形になったことを大変嬉しく誇らしく思います。この題字リニューアルにあたり、多大なるご尽力をいただいた編集委員長の朝位先生、常盤工業会の皆様へ、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。これからも、常盤工業会を通じて卒業生の活発な交流が行われることを心より楽しみにしています。

私自身も、次のコラボレーション企画のお話をいただくその日まで、更にデザインに磨きをかけておきたいと思います。